



あなたのカルマ鑑定書
～運命の人と出会えないのは？
人生の旅とソウルメイトの深い関わり～

Ms Y□□□.Y□□□

Yさん、こんにちは。

この度はご依頼いただきましてありがとうございます。

自分を愛する、大切にすること、たぶん人類共通の課題だと思っています。

でもそれに気がつかない、自分を愛するってことに疑問を持たない人と

持つ人とで分かれるかなと思います。

この鑑定書でも述べていきますが、

気がついて模索するのはYさんの

魂的な欲求だと思っていただけるとよいです。

魂の欲求は生き方そのものになります。

この鑑定書が何かヒントがあればいいなと思っています。

後半に彼のことも書いていきますね。

さて、いろいろな情報を過去世という側面からと

ホロスコープという側面からリーディングさせていただきます。

まず初めに前世からみてみますが、ここで前世について少しお話させてください。

人間はたくさん前世をもっており、平均で100前後と言われています。

正確な数字がわからないのは、私の場合、

今の現時点で関係のある前世しか見られないからです。

ほかの情報はシャットアウトされます。

ですので、

ここで私が述べる前世というのは、今の人生の一つ前の人生ではなく、

今抱えていらっしゃる問題に対しての解答になる前世になります。

もう一つ、

実はこの世には、〇〇（有名人）の過去世だった人がたくさんいます。

なぜかというと、

魂は肉体を離れると、一つ一つ分離している状態は長く続かず、

すべての根源に一度溶けこむからです。

そして一つご了承頂きたいこととして、

私のリーディングは詳細な地名や年数が出るときと、

出ないときがあるということです。

では早速、魂の系譜を紐解いてみましょう ^ ^

16世紀ごろのスペインかあの周辺だと思われます。

30歳前後の男性です。

背は平均よりも少し低いかなと、体型もスマートとはいえませんが、

太っているわけでもなく、少〜〜〜〜しガッチとした体型です。

髪の毛は柔らかく、頭の上のほうが少し薄くなってきています。

性格は情熱的で涙もろい、正義感が強く、

弱いものをほうっておけない優しい男性です。

友達や家族をととても大切にする素敵な男性だと思います。

彼の職業は牧師です。

なので、もちろん彼はキリスト教徒。

少し年配の牧師と2人で一つの教会を管理しています。

掃除をする人や牧を割る人、食事を作る人など、

教会を維持するための従業員のような方々もいるのですが、

この男性は牧師の仕事の他に、そういった雑用的なものも

進んで手伝ったりするので、非常に人望があります。

熱心なキリスト教徒の彼ですから、

ちょっと厳格なところがあるし、時折、人に厳しいところもありますが、

平均的にみると素晴らしい男性かなと思います。

彼は教会に通ってくる方々に聖書の教えを説き、

そしてキリストに懺悔をしたい方々の力になっていました。

牧師というのは、人々にとっては人生（心）の拠り所です。

彼は助けを求めてきた人をキリストの教えの元に救おうと日々奮闘していました。

ただその熱心さによって人を縛る傾向があったのも事実です。

「神はこうしなければ決して許してくれないだろう」

「それは神のご意志に背くこと、それは地獄の住人になること」

「地獄の住人になればもう二度と、魂は救済されないだろう」

そんなふうになんかの気持ちを強く縛ることもありました。

でもそれは、熱心なキリスト教徒では当たり前といえば当たり前です。

他の教会の牧師もそういうことを言っています。

彼だけが特別厳しかったわけではありません。

もちろん、彼も人に言うからには、自分の行いも正さなくてはと

思っていたので、清貧をよしとしていましたし、

自分の女性に対しての欲などに対しても抑圧をしていた部分があります。

牧師の中には自分の権力を行使して、人々から搾取したり

女性と性的関係を強要する人たちもいましたから

彼はとても誠実に自分の人生を歩いていたのではないのでしょうか。

ただ結婚してもおかしくない年齢をとくに過ぎているのに結婚をしていません。

実は彼には一つだけ悩みがありました。

性的に少し機能不全なところがあったのです。

いつもではないのですが、少し弱いところがありました。

彼はとても優しい男性ですので、それは裏を返せば繊細な男性です。

傷つくことを怖れていました。

幸い牧師という仕事は、隠されていたりはしていますが、

実情は、同性愛者がいたり、中々複雑な世界でもあります。

なので、結婚をしていないということが

一般社会に比べて、ひどく指を指されることはありませんでした。

でも彼はやっぱり男です。

女性の身体に触りたいですし、家庭だって持ちたいのです。

自分への自信のなさから、それに躊躇していました。

でも神への忠誠心という言葉で自分をごまかしていました。

ただ数年後、彼は家族の強い勧めもあり、

お見合い結婚のようなことで妻を迎えます。

彼女とは年齢は16, 7歳離れていました。

熱心なキリスト教徒の家庭で生まれ育ち、

彼女自身も熱心です。

大人しい感じの女性でしたので、

彼も彼女だったら大丈夫かもしれないかと

そんな希望をもって結婚に踏み切りました。

が、なかなかうまくいきませんでした。

彼女はそれで彼を嫌うことはなかったのですが、

彼のプライドというか、恥ずかしさが勝ってしまい、

二人の間にはなんとなく距離ができてしまったのです。

傍目には仲のいい夫婦でしたが、真に心を通い合わすことができていません。

彼は優しい人でしたので、夫としてよく妻をいたわりました。

ただなんとなくそれは、表面的な感じにしか彼女には感じられず・・・

そうですね、彼は一番こう人間的な部分（性）が必要なことについて

彼女と向き合っていなかったのですから、彼女にとっては彼の優しさは

表面的にしか感じられなかったのだと思います。

妻も年齢を重ねると女性として熟してきます。

彼女もこういう生活はとても不幸だと感じ、心を開かなくなりました。

彼は自分が不能だから妻とうまくいかなくなったと責めているのですが、

夫婦がうまくいかなかったのは、そこではありませんよね？

彼のその後の人生はまとめのところで触れながら後でお話します。

次は彼との関係についての過去世をみてみましょう。

Yさんが男性、彼は女性です。

中規模の町に二人はそれぞれ家族と一緒に暮らしています。

場所は日本のようですね、、、信州かなと思います。

おそらく江戸時代でしょう。

(年代がはっきりしないのは、あまり重要性がないからかと思います。)

お互いに年齢が近く、恋人同士でした。

家柄もそれほど差がなく、結婚に対してのハードルはそれほど高くありませんでした。

ただ男性のお母さんはあまり乗り気ではなかったのです。

単に女性を気に入らなかつただけという理由なのですが、

それは二人の間でも話がでていて

「お義母さまに気に入られていないことが心配」

ということは女性は思っていました。

彼もどうしたらいいのかという思いでいたのです。

彼女も男性が自分をかばってくれるのか不安でした。

男性が「大丈夫、俺がついているから」と言ってくれば、

ついていこうという決心もつくのに、頼りなげに

「う〜〜ん、どうしようかぁ・・・」などと言っているだけだったので。

これは男性が彼女を愛していなかったわけではありません。

彼としては彼女を愛していたし、守りたいと思っていました。

ただ彼の性格が問題でした。

事なかれ主義というか、争いに対して非常に避ける傾向が強かったのです。

争いの種がでてきそうなら、関わりたくない。

誰でもその傾向があるのですが、心配性なところも強く、

どうしても悪い方向に考えてしまったようです。

もし彼が楽天的な性格なら、

「大丈夫、何かあったらその時に二人で考えて解決して行こう。」

ということもできたと思うのですが、

彼の頭の中にはネガティブなストーリーしか展開していかなかったのです。

人との輪を乱すことを極度に怖れているので、

友人同士や仲間内でもあまり自分の意見をいいません。

それは彼が臆病だからではなく、平和を愛するやさしい人だからなのですが、、

そういう彼ですから、結婚はなくなってしまいました。

彼はとても後悔しました。

でも自分の無力さをどうすることもできなかったようです。

平和を愛する、人の輪を乱さない、優しい・・・

使い方を間違えると一番大切なものを失うことになるのです。

過去世のリーディングはここまでです。

つぎに占星術の面からYさんを紐解いて見ましょう。

Yさんは5室6室に特徴があります。

まずは6室を見てみましょう。

6室は健康や労働と象徴されることが多いのですが、

変容という意味もあります。

健康というのは肉体を象徴しています。

物理的なことに対しての変容を促しているとも言えます。

それは第6室に入っているということからも「労働」に対するアプローチが重要なようです。

今の仕事を楽しんでいるか楽しくないのか、まずはそこです。

なぜなら、第10室の月とアスペクトをとっているので、

自分の感覚感情を大切にできない仕事は、Yさんの肉体にも影響があるようです。

それは他の人以上に「天職」というものに対して

きちんと向き合っていく必要性があるともいえます。

また6室に入っている感受点が8室の金星や海王星とアスペクトをとっていますので、

精神的な変容（満足）を求められているようです。

肉体・心・精神（魂）の3つを満たされるようなものをしていきたいという

ホロスコープの欲求がの強さが感じられます。

それは、たぶん辛いものになるのではないのでしょうか・・・困難というか・・・

5室は与えるということもテーマになっていますので、

そこにある水星がASCと結びついているということは、

自分の知識や経験を与えていくことがASCを活かしていくことにつながるようです。

また第5室の天秤座の土星は、心から満たされるパートナーシップへの強い憧れ、

そしてそれを現実にしたという強い希望の象徴です。

運命の人というのは、誰にとっても甘美で憧れる言葉だと思います。

Yさんの場合、ひとときそれが強調されているようです。

前世でもそうだったのですが、二人の男性はどちらもパートナーとの心の交流を望み

でも失敗しているという過去世でした。

そしてそれが出てきたということは、Yさんはパートナーとの深いレベルでの心の触れ合いは、

今生で必ず達成しなければいけないぐらいの気迫さを持っているともいえるでしょう。

パートナーシップに入っている天王星も改革の星です。

ASCと結びついていますね。

ASCは自分の基礎の部分ですので、冥王星や天王星が示す通り、

一旦破壊して再生する必要があるようです。

やっぱりしんどい作業をしなくてははいけないようですし、

それにYさんは気がついていらっしゃるのではないのでしょうか。

Yさんの感受点が一つ一つが指さしているのは、「変化・変容」です。

今の立ち位置ではなく、与える側にまわるということのようです。

それは最初はしんどいことかもしれませんが、Yさんにとって楽しいことのようにです。

与えることで経済を循環させていくことになっていきたいという

ホロスコープの願いが感じられます。

第7室にトランスサタニアンが入っている方というのは、

「受け身」の人生ではなくて、かなり自分からまい進する人生を送ります。

もし今、それができていないとすれば、それは怖れですので、手放す必要があります。

ここが変容のポイントとなるでしょう。

つぎに彼との占星術的な関係をみてみましょう。

彼の天王星もYさんのA C Sとオポです。

彼との前世のかかわり、Yさんの単独の前世から複合的にみると、

彼はYさんにとって何か変革をしいられる相手

トランスサタニアンの膨大なエネルギーを与える相手ということになります。

縁的なものが深い、といえるようです。

もう一つ、彼の太陽とYさんのACSもオポですよ。

彼の存在がYさんという人間を根底から

変化させるほどのものを持っているのかもしれない。

それは、そのYさんの天王星は彼の太陽とコンジャクションで

ここにエネルギーがすごく集中されているということはわかると思います。

そしてそこに働く力の大きさもわかるかなと思います。

お互いに改革をサポートし合うそんなご縁でもあります。

それは物理的に手を取り合っただけのサポートではないかもしれません。

トランスサタニアンですから、精神的な魂的な部分を強く揺さぶられるような

サポートになることが多く、辛い出来事が多いかもしれませんね。

離れることになったことで、YさんがYさん自身への関わり方について

彼は彼自身の関わりについて、考えることをしなくてはいけないのだということかなと。

ただYさんの第7室の天王星という観点からみると、

この改革と向き合うことは、お二人の絆を結びなおすことになる可能性は高いです。

前世のところでも申し上げましたが、「彼（Yさん）」はとても後悔しています。

愛していた人を自分の弱さで失いたくないと思っていますから、

ここをクリアすることは、イコール彼とのことも再生させることになるのかもしれませんが。

彼の土星や木星がYさんのMCとトラインなので、

Yさんが社会との関わりを喜びをベースに関われるように

サポートする意図もあるようです。

彼と関わることでYさんが自分がどう生きていけばいいのかを

自ずと振り返ることになるそんな関係であるといえるかなと思います。

もちろんYさんの金星と彼の火星がコンジャクションですので、

男女としてもお互いに強く惹かれている、Yさんが彼に対しての想いを

諦め切れないのは当然ともいえるでしょう。

それ以上にYさんの主要な感受点との関わりが多いのですから・・・

以上がリーディング内容になります。

■ あなたの過去世は

16世紀ヨーロッパで牧師をしていました。

人間的も誠実な男性でしたが、一つだけ不誠実なところがあったようです。

それは妻との関係においてです。

■ 彼との過去世は

江戸時代の日本で恋人同士だったようです。

結婚の約束もしていました。

ただ彼は優しさを自分の中で勘違いしてしまったようです。

それまで何事もなく平和に過ごせていたことを変えるのは怖かったのでしょう。

Yさんの単独の過去世と彼との過去世に共通項が見いだせますね。

■ あなたの選ぶべき生き方は

もう少し能動的に人と関わっていく、それは与える愛です。

これが必要なのですが、この状態になるには、

今までの心の持ち方を大きく変化させる必要があるようです。

人の顔色をうかがう、人の気持ちの裏をとってしまうというのは、

相手にパワーを与えています。

それは愛を頂戴といっている行為と同じなのです。

牧師の彼は与える愛の人でした。

でもなぜ今それができないのでしょうか？

それは彼がキリスト教徒であったことに原因があるようです。

人を縛っていた、「こうしなければ」という怖れを与えていたことに

彼は晩年それが間違いだと気がついたのですが、

そのことに罪悪感を抱いてなくなっていますが、

その罪悪感はまだ手放していいと気づきを与えるとよいです。

そして、過去世でのパートナーシップの関わり方です。

過去世の男性は傷ついてもパートナーともう少し心の深いところで

お互いに理解できるように関わることをするべきだったと思います。

今また自分を変化させないと、無力な自分しか残りません。

心の奥で強く自分が変わることを願っているのでしょうか。

そしてそれが天職というか、自分の生き方の礎になるようです。

ご自身に対してアプローチしていると探さなくても自然に物事はそうなっています。

彼とのこともいい方向に流れるはずですよ。

■ 私からのコメント

では、自分を大切にする、自分を愛するとはどういうことなのか？

ということですが、自分の感情を無視しないということです。

人の顔色をうかがっているときは何か不安だからです。

人の言葉の裏を読むのも不安だからです。

その不安に「不安なんだね、大丈夫だよ」と声をかけてあげてください。

悲しみの感情があつたら「悲しいんだよね、わかるよ」と声をかけてあげてください。

とにかくネガティブな感情を徹底的に大切にしてください。

ポジティブに変化をさせることは絶対にしないで、そのまんまの気持ちを

「そうだね、わかるよ」と受け止めてあげてください。

もちろん最初は時間はかかりますが、この訓練をしていけば、必ず変化はしていきます。

Ｙさんの単独の過去世と彼との過去世に共通項が見いだせましたか？

どちらも自分を防衛しているのです。

これって受け身な生き方なんです。

そしてそのことで、ふたりとも大切な人を失っているということなんです。

彼とのご縁の形もこれです。

だからＹさんが変化させることで、失うご縁から脱することができますし、

失うご縁をここで断ち切らないといけないようです。

失うご縁はもう卒業なのです。

だから彼との絆を取り戻してください。

2016年8月26日（9月9日改訂）

ちょっとだけ私のことについて

恋愛系のセラピーをしようと思ったのは、占いをしていて、セラピーで8、9割は解決できるのに・・・
という気持ちからでした。

でも多くの人は恋愛がうまくいかないことで、セラピーが有効だということを知りません。

占いの現場でそれがものすごくジレンマだったのです。

占いは本当に人が解決していきたいことには、かなり難しいものです。

なぜなら潜在意識は、言葉では変化することが難しいからです。

ほんのちょっと勇気を出して自分をみつめたとき、大きく人生は変化し始めます。

私自身も恋愛で苦労したのですが、そこから抜け出したとき、自身の覚醒体験や多くの経験が、
学んだセラピーの技術とシンクロし、恋愛に有効なセッションをご提供できるようになりました。

『婚活しなくても運命の人に出会える|ソウルメイトに出会うレッスン』

<http://soulmatelesson.com/>

『幸せな復縁をする復縁セラピー|心の絶対法則で元彼と愛ある日々を取り戻す』

<http://fukuentherapy.com/>